

平成25年度専門医認定試験に対するコメントとその回答および正答の変更について

番号	全体的なコメント
出題	
正答	
コメント	共通問題のQ3と各論AのQ3でいずれもモルモットの胸腺に関する記載があるため、互いに比較することで回答を導き出されてしまうのではないかと感じました。知っていれば、2問とも簡単に正解できてしまう為、同じ年度に両方出題しなかった方が良かったのではないのでしょうか。 入学試験とは異なり、資格認定試験ですので、一定点数以上取れば、全員合格ですが、ここで各論Aの選択者と各論Bの選択者とで、わずか1点ですが、差がつく可能性がありますので、次年度以降、共通と各論とで同じような問題が重なっていないかもご確認の上、出題いただけたらと存じます。
回答	共通問題のQ3と各論AのQ3は、問題自体としてはどちらも適切な内容と考えます。 共通問題のQ3は文字通りの総論問題、各論AのQ3はモルモットについての問題であり、重複しているという感じは受けません。 知っていれば両方正解ですが、逆に知らなければ両方落とすことも想定されます。これによって各論A選択者が有利になる可能性は低いと考えております。 なお次回から事前により注意してチェックして対応いたします。
正答の変更	変更なし。

番号	共通 Q16
出題	Q16.リムルス試験に関する記載で誤っているのはどれか。 1. エンテロトキシンを検出する方法である 2. 動物の生体が使用されていた従来の試験の代替法となっている。 3. 被検物質でカプトガニの血液成分が凝固する性質を利用している。 4. TNF α やIL-1 β などのサイトカインは検出されない。 5. プロスタグランジンは検出されない。
正答	1
コメント	設問であるリムルス試験が専門医の知識を問う共通問題として相応しいのか疑問
回答	代替法として広く利用されている数少ない事例として、リムルス試験は3Rを推進するJCLAM専門医としても重要と考えます。
正答の変更	なし。

番号	共通 Q38
出題	Q38. 実験動物の微生物モニタリングに関する記述として、誤っているのはどれか。 1. 微生物モニタリングとは、実験動物の微生物統御における品質検査の一つである。 2. 微生物モニタリングとは、病原体を分離・同定あるいは病原体に対する抗体を検出することにより、感染症を診断する方法である。 3. 微生物モニタリングでは、検査対象微生物をあらかじめ設定し、それらを正確に効率よく検出することが重要である。 4. 微生物モニタリングの検査対象微生物は施設の微生物コントロールに関するハード、ソフトの充実度あるいは動物の使用目的、維持動物の有無等を勘案し、選択する。 5. 大半が不顕性感染の経過をたどるような病原性の弱い微生物は、免疫不全動物を使用する施設を除き、微生物モニタリングの対象とする必要はない。
正答	5
コメント	H22共通Q21、H20共通Q35では、2の記述内容が誤りとなっています。
回答	ご指摘のとおり、過去問と同様に、2も記載内容が誤りです。
正答の変更	あり。2と5を正答とする。

番号	各論A Q21
出題	Q21 図Aに記載された、「野生方ゲノム」
正答	4
コメント	図Aに記載された、「野生方ゲノム」は、「野生型ゲノム」の誤り。

回答	ご指摘通りですが、正答に影響を与えるほどではないと思われます。今後は気を付けます。
正答の変更	変更なし。

番号	各論A Q39
出題	Q39.マウスに20～30 分程度の生存外科的処置をおこなう場合に、最も適切な麻酔法はどれか。 1. プロポフォール 10mg/kg iv 2. チオペンタール 15mg/kg iv 3. ペントバルビタール 50mg/kg ip 4. ケタミン 75mg/kg+メedetミジン 0.5mg/kg ip 5. ミタゾラム 0.3mg/kg+メedetミジン 4mg/kg + ブトリファノール 5mg/kg ip
正答	4
コメント	メedetミジン 0.5mg/kg ipは、1.0mg/kg ipと資料に上げた文献ではなっている。 1. ラボラトリーアニマルの麻酔(p141)、2. 現代動物実験動物学(p187)
回答	出典によりケタミンと併用するメedetミジンの用量には差(幅)(メedetミジン 0.5-1.0mg/kg ip)があります「実験動物学(モデル・コア・カリキュラム準拠)(朝倉書店)では、ケタミン 75mg/kg+メedetミジン 0.5mg/kg ip、現代実験動物学(朝倉書店)では、ケタミン 75mg/kg+メedetミジン 1.0mg/kg ip」。
正答の変更	変更なし。

番号	各論B Q19
出題	Q19 図Aに記載された、「野生方ゲノム」
正答	4
コメント	図Aに記載された、「野生方ゲノム」は、「野生型ゲノム」の誤り。
回答	ご指摘通りですが、正答に影響を与えるほどではないと思われます。今後は気を付けます。
正答の変更	変更なし。

番号	各論B Q25
出題	Q25. サルの結核について誤っている記述はどれか。 1. 霊長類の結核は大部分が群内の他の個体からの感染による。 2. 感染症法 * によりサルの結核は二類感染症に分類されている。 3. 肺のほか各種臓器に結核病巣を形成する。 4. 搬入時に眼瞼や胸部皮膚などを使ってツベルクリン検査を行う。 5. 治療は抗生物質投与、補液による維持療法によって行う。 * 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
正答	1
コメント	群内の最初の感染はヒトからの感染が多いと思いますが、一旦感染個体が現れたらサル間でも伝播します。1の記述が誤りとは一概には言えないのではないのでしょうか？また、治療は行わず、淘汰するのが一般的なようです。5の記述は誤りではないですが、あまり適切ではないのではないのでしょうか？資料:現代実験動物学(朝倉書店) p.96
回答	実験動物としてのサルの結核は群内での感染が主ではなくヒトから感染するZoonosisです。5の記述は治療法としては正しい方法です。ただ、“治療するならば”という但し書きの上でより適切な表現となります。なお実験動物として陽性が出た場合は安楽死させるのが適切です。資料1: 獣医微生物学 第2版 p.107 資料2: Bushmitz et al. Guidelines for the prevention and control of tuberculosis in non-human primates: recommendations of the European Primate Veterinary Association Working Group on Tuberculosis. J Med Primatol (2009) vol. 38 (1) pp. 59-69 資料3: OIE ホームページ http://www.oie.int/doc/ged/D9357.PDF p292, Mycobacterium tuberculosis in zoo and wildlife species, Primates
正答の変更	変更なし。

番号	各論B Q27
----	---------

出題	<p>Q27. イヌ伝染性肝炎について正しい記述はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イヌアデノウイルス血清型2に起因する。 2. 出血性炎と肝炎を主徴とする。 3. 定型例では食欲増進、微熱、感覚の過剰、流涎、頭部の圧痛、便秘、白血球増多症、安楽死などを認める。 4. ウイルスは腸上皮細胞や血管内皮細胞の細胞質内に封入体を形成する。 5. ワクチンの普及により定型症例の発生が増加した。
正答	2
コメント	安楽死を認めるという表現が適切ではない。
回答	3.の「安楽死を認めるという表現」は適切ではありません。「急死など」という表現が適切かもしれません。なお、他の項目が間違いなので選択肢が間違いである事にかわりはありません。
正答の変更	変更なし。